

8. 東北の自然災害伝承碑

—昭和三陸津波**記念碑の移設**問題—

2025年10月8日

東北開発コンサルタント 橋本修一

(2025-10-14 一部補筆)

内 容

1. 東北の自然災害伝承碑の分布
2. 昭和三陸津波記念碑の特徴
3. 2011年東日本大震災による損壊
4. 津波記念碑の移設
 - 4.1 女川町石浜……1.2km先？「この公園」とは？
 - 4.2 石巻市十八成浜……山裾から450^m南東の海岸へ！
 - 4.3 南三陸町波伝谷……海岸から300^m南西の高所へ！
5. 考察 記念碑に「履歴書」を！

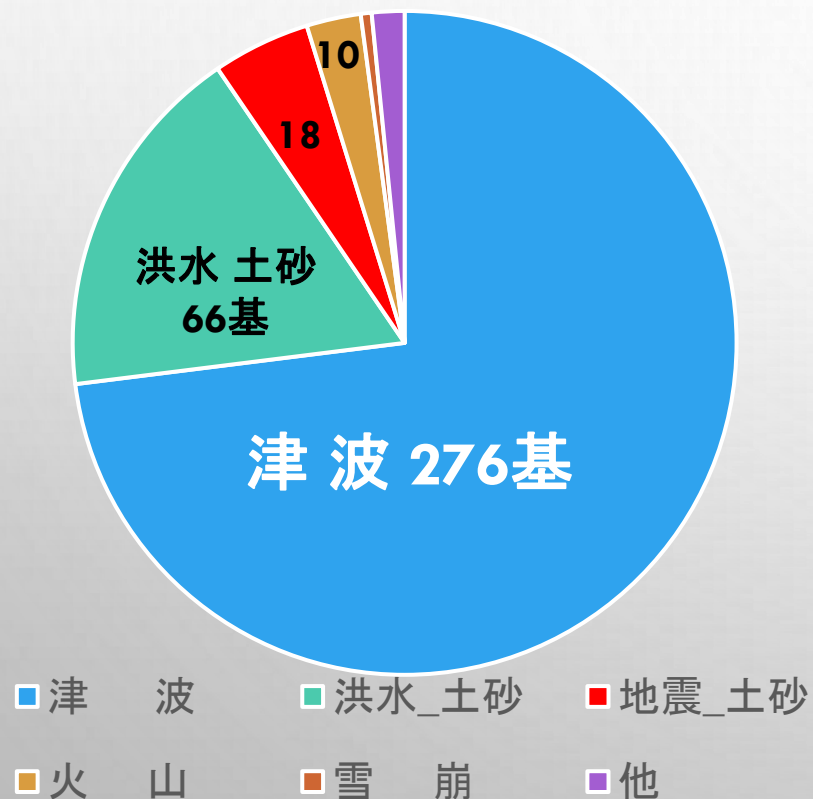
1. 東北の自然災害伝承碑の分布

国土地理院_自然災害伝承碑の公開状況

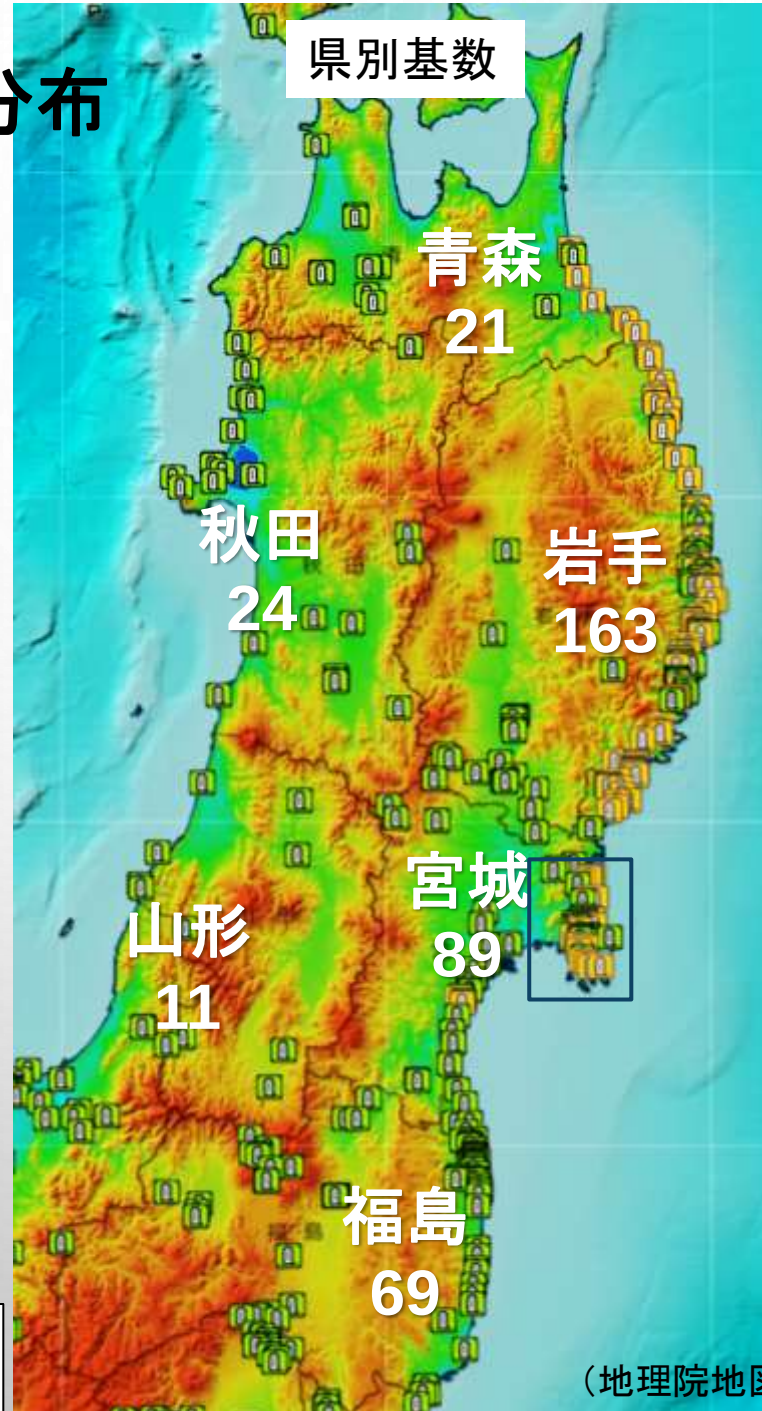
● 東北6県 378基(全国 2,384基)

2025-9-25現在

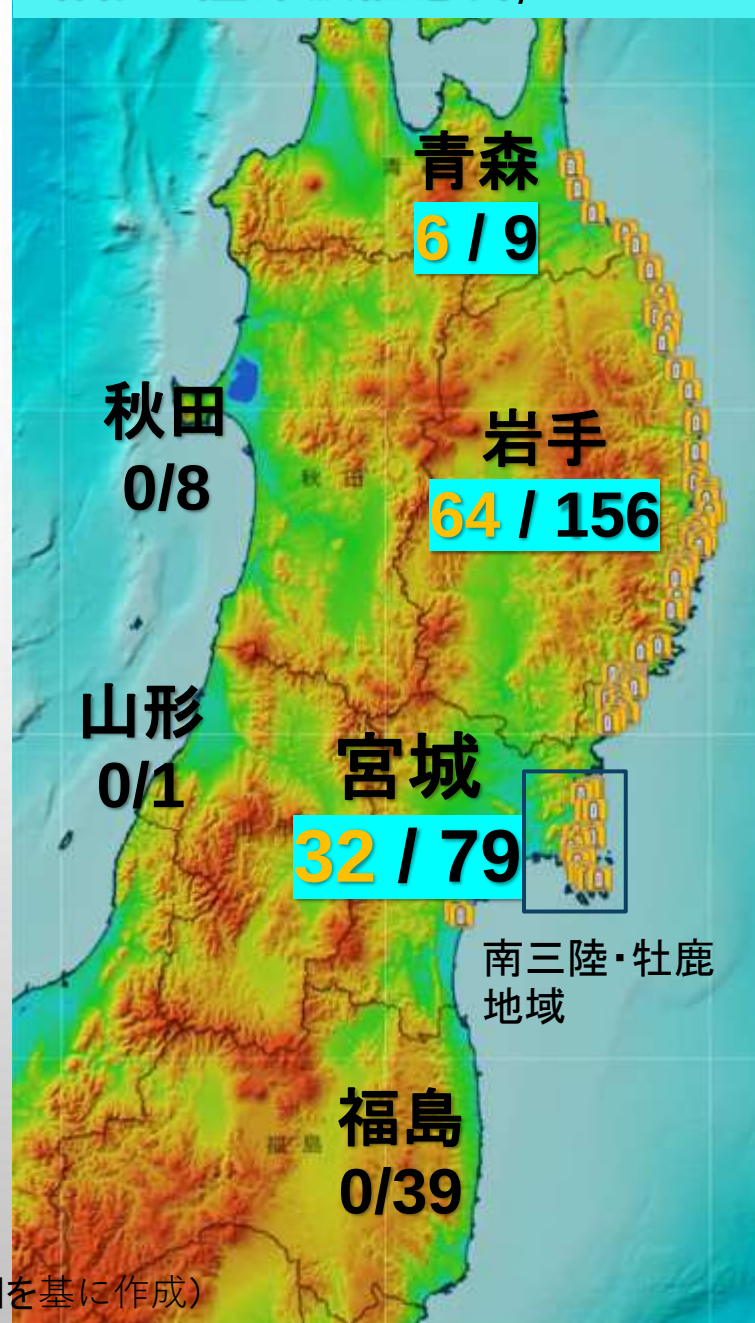
自然災害伝承碑の分布(東北・災害種別)



注：複数の津波碑が一基として集約されている例もあるため、県別基数と合致しない



昭和三陸津波記念碑/全津波碑



2. 昭和三陸津波記念碑の特徴

2.1 記念碑建立の経緯

昭和三陸地震津波記念碑分布
(2025-02-27時点)



4.3 波伝谷

4.1 石浜

鮫浦
(図-1右)

萩浜
(図-1左)

4.2 十八成浜

(地理院地図を基に作成)

昭和三陸地震:

1933年3月3日午前2時半、
釜石沖東方200kmを震源
「アウターライズ」の地震 M8.1,
人的被害死・不明者3,064名。

「津波記念碑」

義捐金残余を基に, 一斉に建立

【宮城県】碑の大きさ、標語案、
記載事項など基準を定め, 各町
村に建設を指示
(63部落、昭和9年度全竣工)

自然災害伝承碑登録は 32 基
(2025-09-25現在)

2. 昭和三陸津波記念碑の特徴

2.2 旧町村ごとの特色

旧大原村の例
(石巻市鮫浦
File No.04-I20)



(標高6.5m)
正面全体
(図一1右)



2011年倒壊、西20mに移設

昭和八年三月三日
大震災記念

発震ノ時 午前二時三十二分
津波ノ襲来 午前三時
津波の高サ 四・八〇米
一 地震があつたら津浪の用心
一 津波が来たら**これより高い所へ**
一 危険区域内に住居をするな
死去者 十九名
被行衛不明者 十七名
害負傷者 十五名
状住家全流失 十戸
況同 全潰 三戸……以下略

2. 昭和三陸津波記念碑の特徴

2.2 旧町村ごとの特色

旧荻浜村の例 図一1左

(石巻市荻浜 File No.04-109)

＜正面に標語＞

地震があったら津浪の用心
忘るな火の元の注意
先に老幼續いて避難第一



2011年倒壊、旧荻浜村役場跡地に集合移設



2. 昭和三陸津波記念碑の特徴

2.2 旧町村ごとの特色

旧女川町の例

(女川町高白浜 FileNo.04-003)



標語
大地震の後には津浪が来る
地震があつたら津浪の用心

2011年浸水するもブロックに囲まれ健在(標高3.1m)

旧鮎川村の例

(石巻市鮎川浜 FileNo.04-I02)



標語
地震があつたら津浪の用心
それや来た逃げよう此の場所へ

2011年浸水せず健在(標高11.9m)

2. 昭和三陸津波記念碑の特徴

2.2 旧町村ごとの特色

背面の記載



此記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十万余りを罹
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです

大原村



（天皇皇后両陛下の御恩への感謝の文の後、
後三行に）

この記念碑は朝日新聞社寄託の義金
貳拾餘萬圓を罹災町村へ分配したる
残額をもつて建てたるものなり

昭和九年三月三日 女川町

記念碑の石材は「井内石」(「仙台石」とも呼ばれる)

地層名:三畳系 稲井層群伊里前層

●葉理砂質頁岩, Laminated sandy shale (図幅の凡例 →)

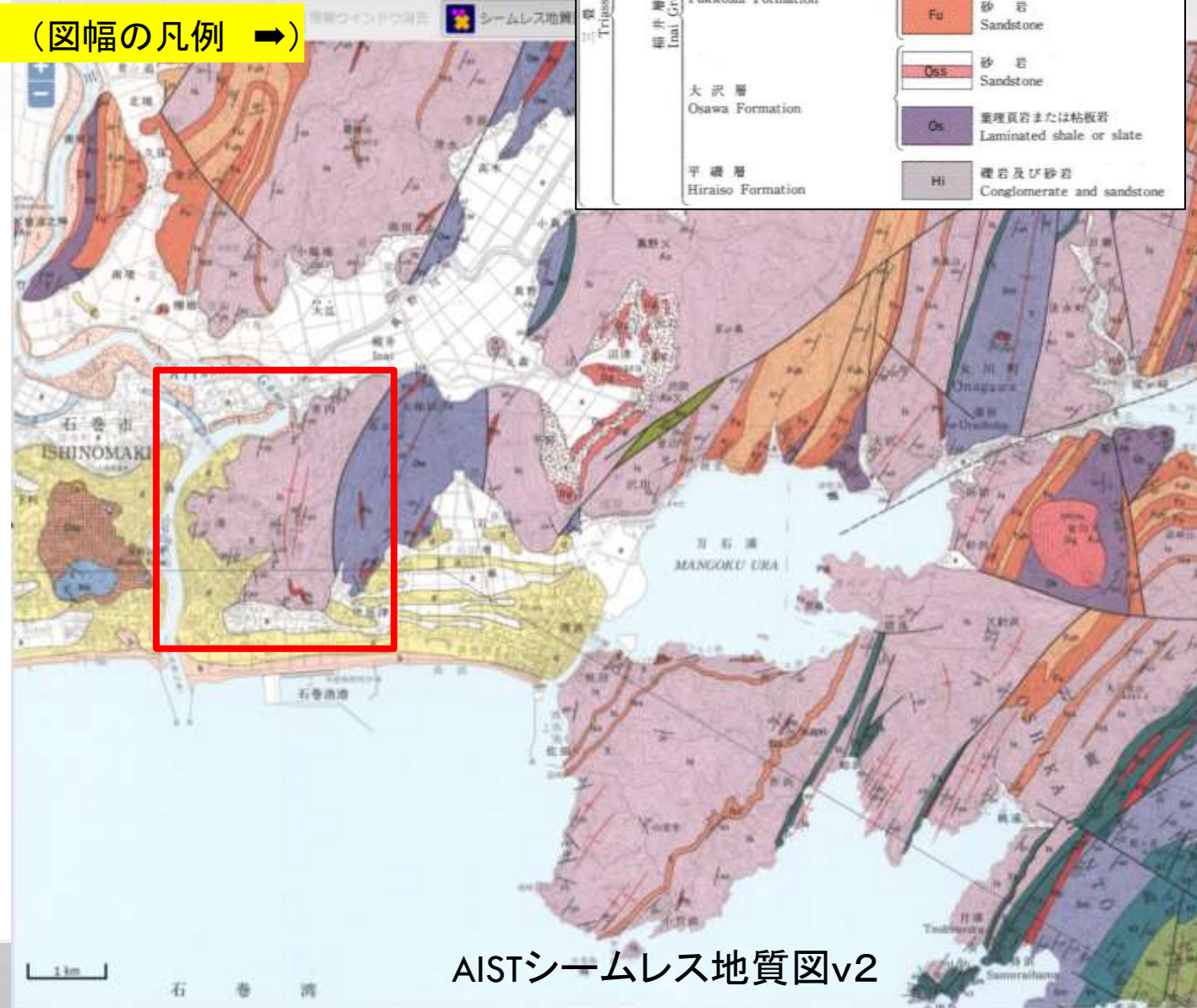
●縞状砂質粘板岩(説明書p.88)



第62図 石巻市内における井内石採石所の分布

(滝澤ほか,1984 1/5万地質図幅「石巻」より)

(図幅の凡例 →)



AISTシームレス地質図v2

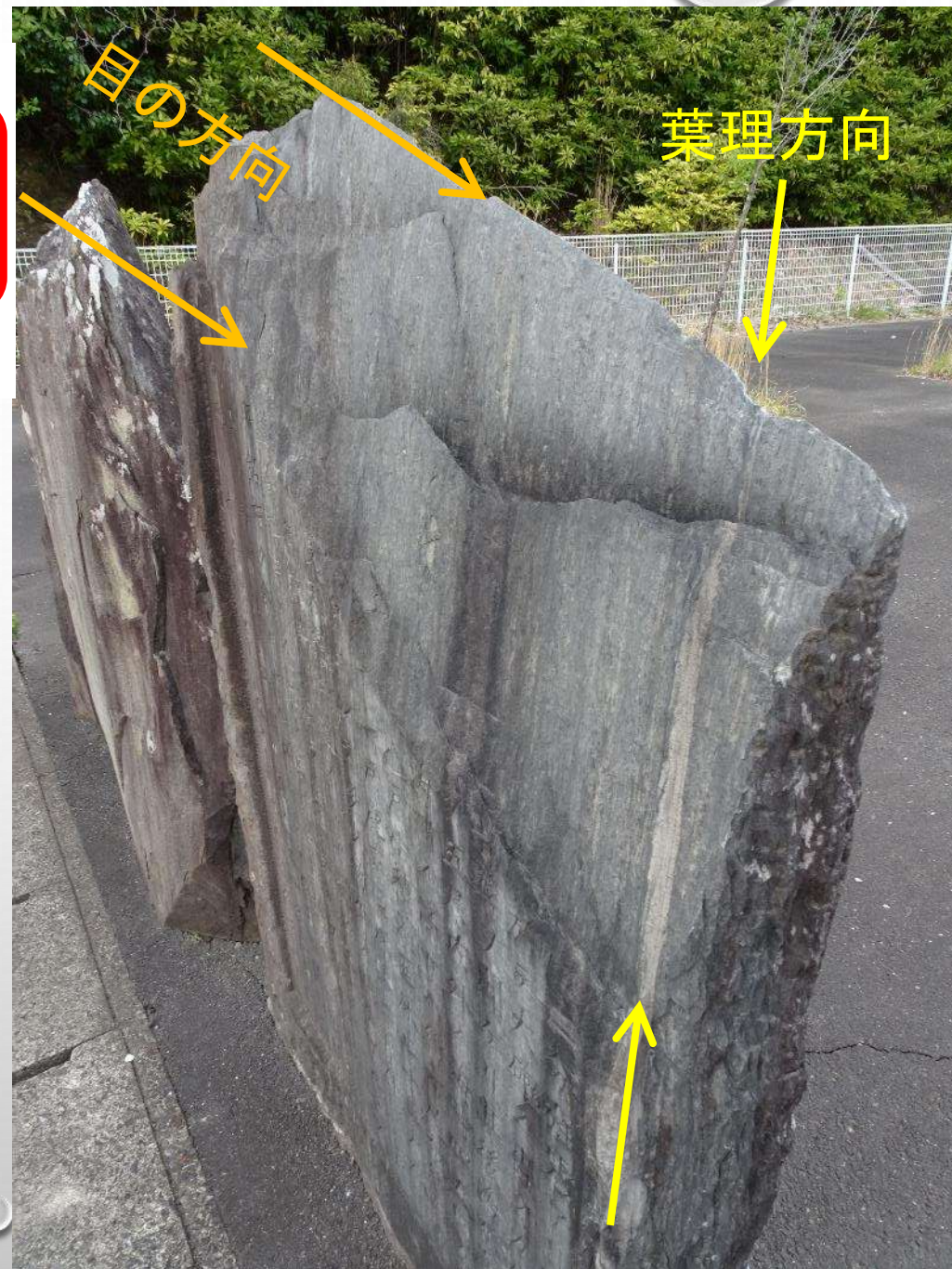
「井内石」の特徴

第9表 井内石(稲井層群伊里前層)

No.	試料品名	SiO ₂ %	TiO ₂ %	AlO ₃ %	Fe ₂ O ₃ %	FeO %	MnO %	MgO%	CaO %
1	ZI540A	59.70	0.49	11.80	0.25	4.18	0.09	3.10	10.23
2	ZI540B	60.33	0.50	12.44	0.34	3.97	0.07	3.11	9.88

(滝澤ほか,1984 1/5万地質図幅「石巻」より)

Key: 石灰分(CaO) 10%、生物擾乱を受けた砂岩葉理、劈開面に平行な長辺状切り出し

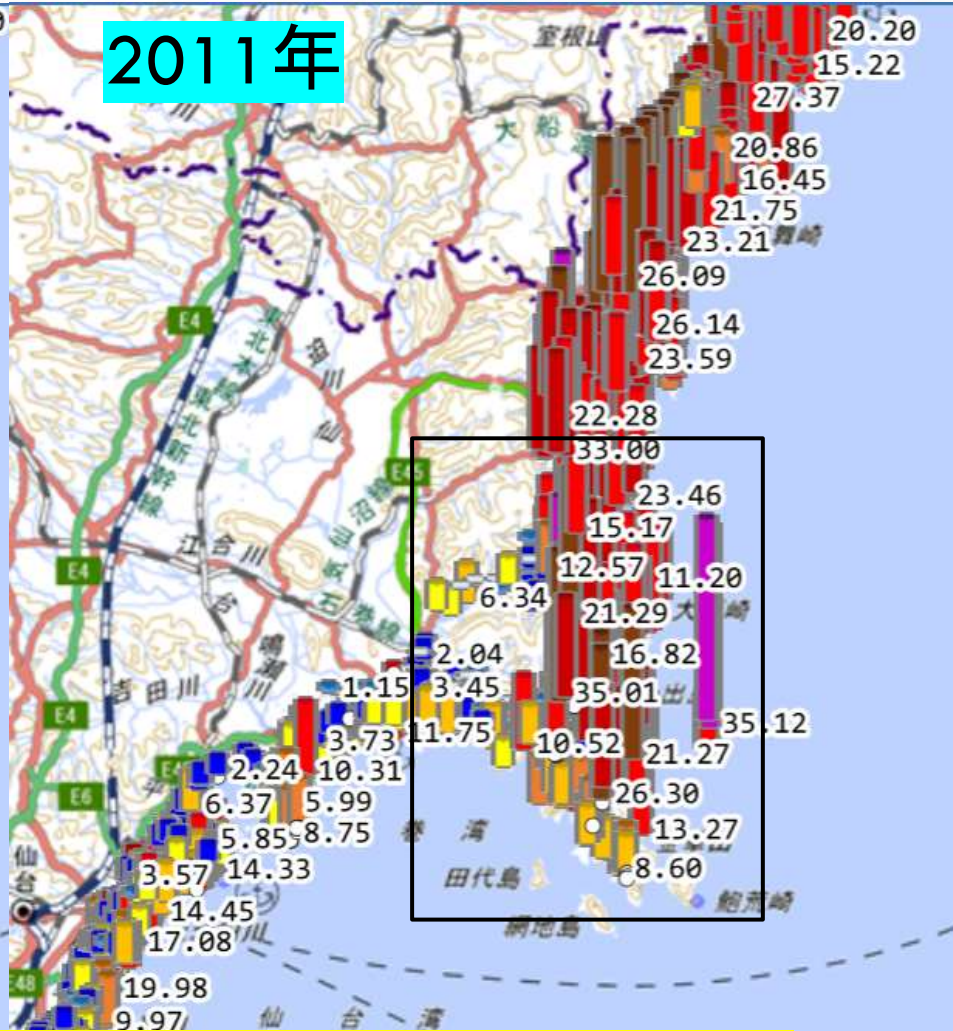
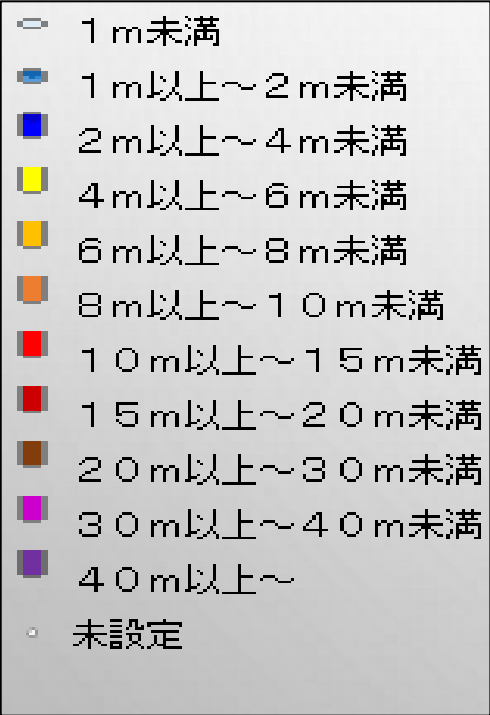


旧荻浜村の記念碑(図 - 1左)

3. 津波記念碑の損壊

記念碑の多くは2011年大津波の浸水域内にあったため、倒壊、折損、流失などの被害を受けている。

津波痕跡高の比較



南三陸・牡鹿地域

津波痕跡データベースより:

https://tsunami-db.irides.tohoku.ac.jp/common/map/index.php?system=tsunami&&visiblesetlayers=p_konseki_maxmin

4. 津波記念碑の移設



- 東北地方太平洋沖地震 津波浸水範囲
- 自然災害伝承碑：東日本大震災（2025年2月27日時点）
- 自然災害伝承碑：昭和三陸地震津波（2025年2月27日時点）
- 自然災害伝承碑：明治三陸地震津波（2025年2月27日時点）

橙色昭和三陸津波記念碑



4.3 波伝谷

戸倉・十三浜

4.1 石浜

雄勝～女川北

女川

4.2 十八成浜

女川南～鮎川

（地理院地図を基に作成）

雄勝～女川北地域

碑の建立地名と整理番号
白抜きは地理院地図未登録

(設置高m/昭和三陸津波高m)
・津波痕跡データベースより

* 2011後の高台造成地に移設、元位置不明

船越荒 119 (4.2m/ 11.4～12.0m)

雄勝伊勢畑 121 (-?--m/ 4.56m)

* 2016年まで写真にて確認、道路整備後所在不明

御前浜 030 (1.8m/ 2.4m)

* 2011年倒壊、がれき埋もれ、同位置に再建立

尾浦 031 (29.3m/ 4.0m)

出島 025 (1.8m/ 2.20m)

出島 028

寺間 026 (12.5m/ 2.10m)

竹浦 019 (13.9m/ 2.00m)

石浜 029 (18.0m/ 3.00m)

* 小学校分教場敷地、昭和36年1.2km南東の「崎山展望公園」(標高57m)に移設、大震災で公園閉鎖後、最近になって現在の高台造成地(標高18m)に移設

女川交番脇 002 (10.1m/ 2.5～3.00m)

石巻市 (旧 十五浜村)

雄勝15

* 大震災後、大規模に山を掘削造成、
西方に移転した新神社鳥居脇に再建

鷲神 032

女川町

(地理院地図を基に作成)

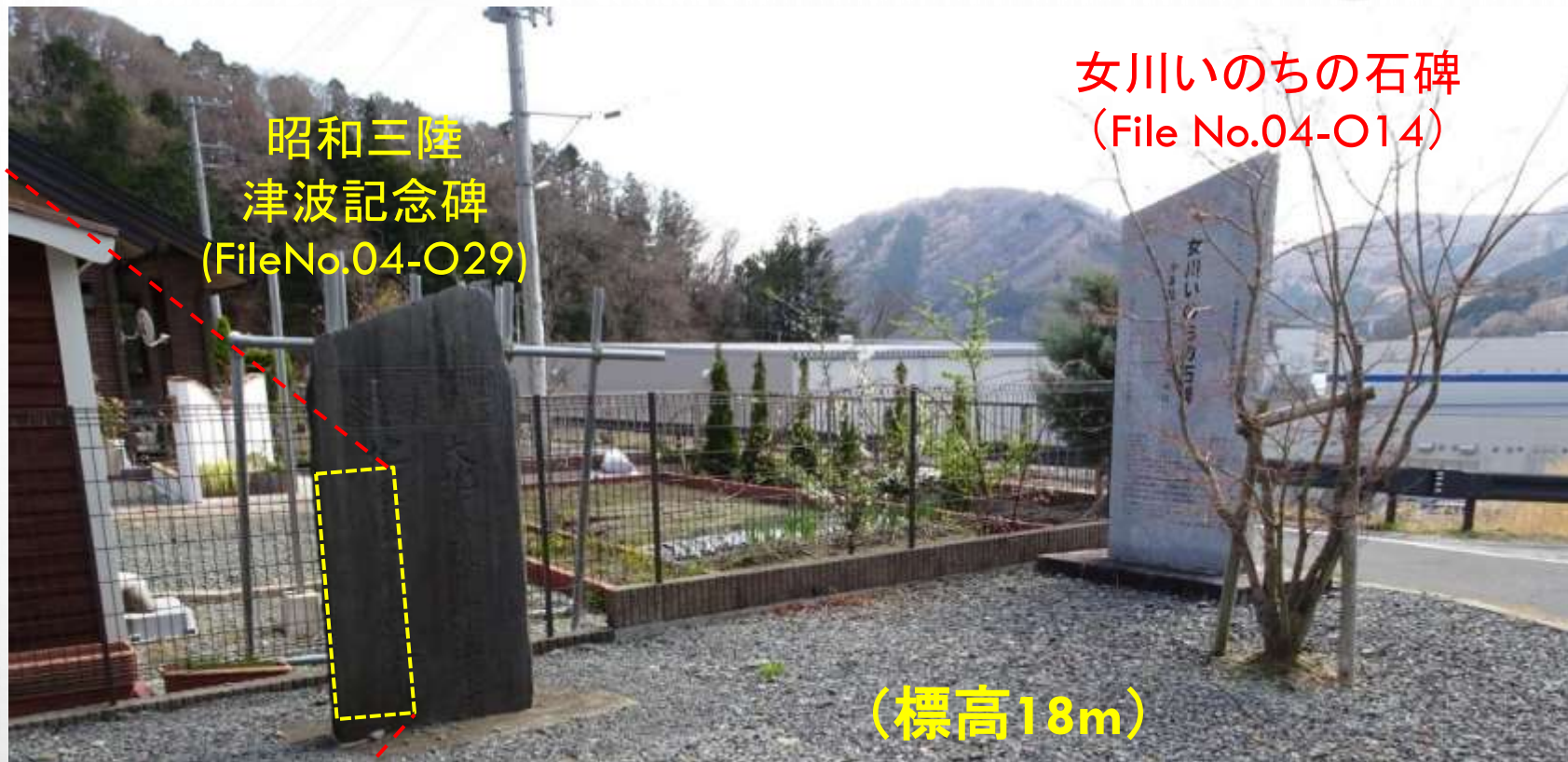
* 元女川町役場敷地、ほぼ同位置に再建立→

4.1

4.1 女川町石浜の事例



昭和三十陸
津波記念碑
(FileNo.04-O29)



女川いのちの石碑
(File No.04-O14)

(標高18m)

高台移転住宅地集会所敷地内より南に女川湾を望む。「女川いのちの石碑」に隣接

「昭和六十三年二月石浜字高森から
この公園に移転」と追加刻字

4.1 女川町石浜の事例



左: 当時の地形(大正2年測図) 右: 現在の電子地図 (「今昔マップ on the web」)

女川南～鮎川地域

碑の建立地名と整理番号
白抜きは地理院地図未登録

(設置高m/昭和津波高m)
・津波痕跡データベースより

桃浦 108

(3.7m/ 1.2m)

荻浜 109

(5.0m/ 1.8m)

* 倒壊、上部損失、旧荻浜役
場跡に他石碑と集約

小積浜 118

(2.9m/ 2.70～6.0m)

小網倉浜 110

(4.1m/ 3.00m)

小渕浜 113

(3.3m/ 2.90m)

十八成浜 114

(5.2→2.5m/ 1.80～2.10m)

* 元小学校敷地から、南東450m海
岸付近の神社階段下に移設

女川町

(旧 荻浜村)

石巻市

(旧 大原村)

(旧 鮎川村)

野々浜 033

(1.9m/ 2.40m)

鮫浦 120

(6.5m/ 5.00m)

* 倒壊、同一標高の西方約
20mに移転、他石碑と集約

大谷川 112

(5.5m/ 2.8～
5.6m)

* 倒壊、2012年同位置に再建、
防波堤工事進捗で、2018年ま
でに、南東に7m移転

谷川浜 111

(7.7m/ 4.8～7.0m)

金華山 117

(----m/ -----m)

鮎川浜 102

(11.9m/ 2.3～3.2m)

4.2

(地理院地図を基に作成)

図一2 (講演論文集 p.16)

4.2 石巻市十八成浜の事例

右:2019年、
地理院地図登録時
下:2025年5月
存在せず。
背後民家(↙)は現存



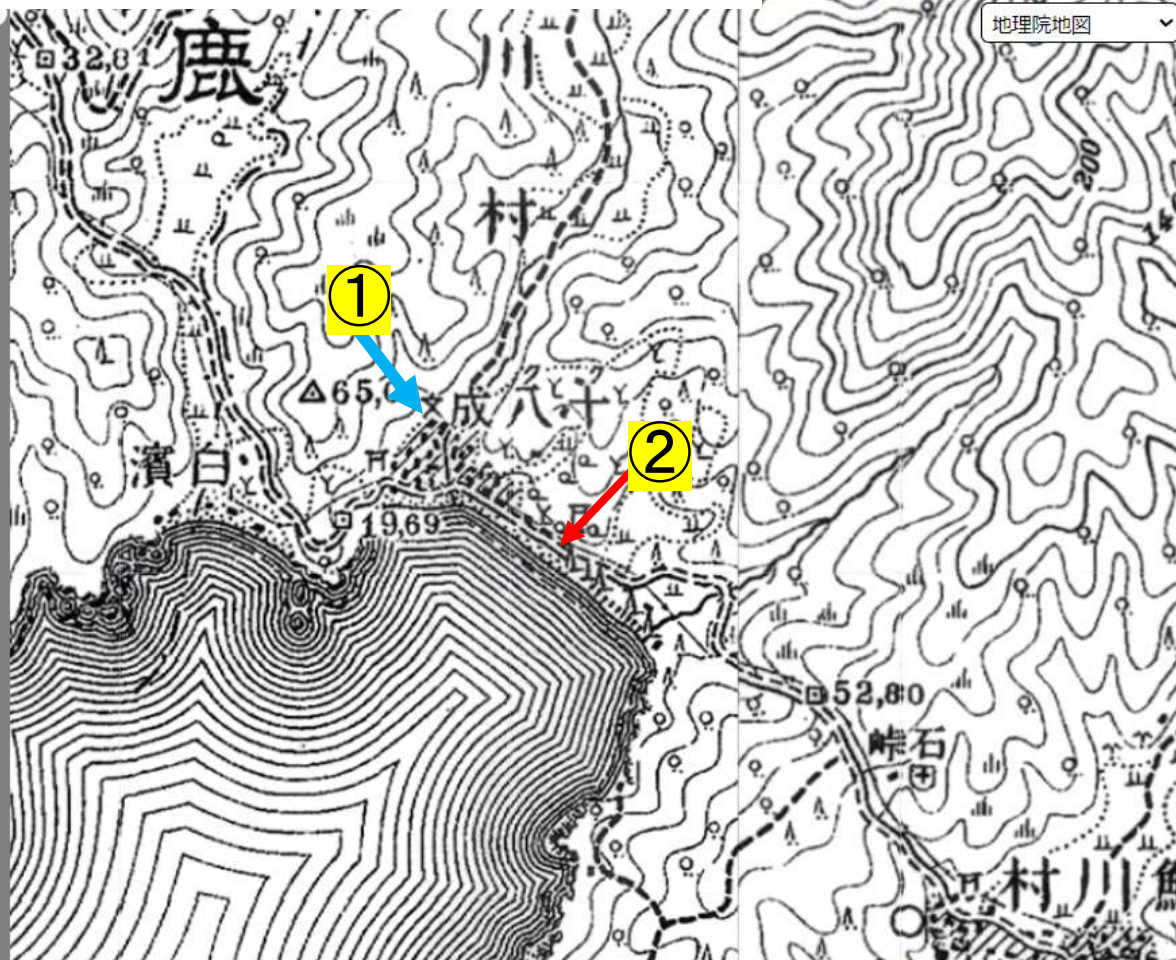
標語
地震があつたら津浪の用心
それや来た逃げよう此の場所へ

2025 - 05 - 09撮影



4.2 石巻市十八成浜の事例

- 1 ○ 2 ● 4画面
- 図郭線表示
- 現在地表示
- ✓ 現在地中心
- ✓ 軌跡 GPX
- 地図記号 共有
- 地図不透明度 100% ▾
- 重ねる地理院地図 なし ▾
- 不透明度 20% ▾
- データセット選択 東北地方太平洋岸 ▾
- 1901~1916年
- 1949~1953年
- 1969~1982年
- 1990~2008年
- 地理院地図
- 非表示 ▲ ▾



- ①学校敷地→民地 地理院地図登録(標高5.2m)
➡②白山神社階段下(標高2.5m)

谷 謙二 (人文地理学研究室)

tweet

用データ

デスクトップ版

地理院地図



標語
地震があつたら津浪の用心
それや来た逃げよう此の場所へ

左: 当時の地形(大正2年測図) 右: 現在の電子地図 (「今昔マップ on the web」)

戸倉・十三浜地域

碑の建立地名と整理番号
白抜きは地理院地図未登録

(設置高m/昭和三陸津波高m)
・津波痕跡データベースより



波伝谷 M02

(4.3m/3.1～3.4m)

4.3

* 倒壊し砂埋もれ、海岸付近(標高4.3m)から、南西300mの戸倉神社(標高16.1m)に移設

藤浜 M03

(8.1m/ 5.50 m)

長清水 M04

(未確認/ 5.00 m)

大指 I07

(2.9m/ 4.80 m)

小指 I06

(6.9m/ 4.80 m)

小泊 I05

(2.7m/ 5.60 m)

白浜 I04

(6.6m/ 4.10 m)

* 2011津波で基礎ごと転倒・倒壊、西南西1.2km長塩谷海岸から、2021年整備公園内に移設

4.3 南三陸町波伝谷の事例

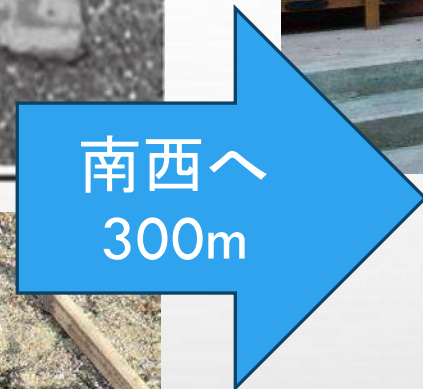
「海岸に倒れて、
浪に打たれていた、残存」
2012/1/25-27調
査（北原ほか、
2012）



「調査当時砂浜
に埋没していた」
2012/3/15撮影
（NIED 災害記念
碑デジタルアーカ
イブマップ）



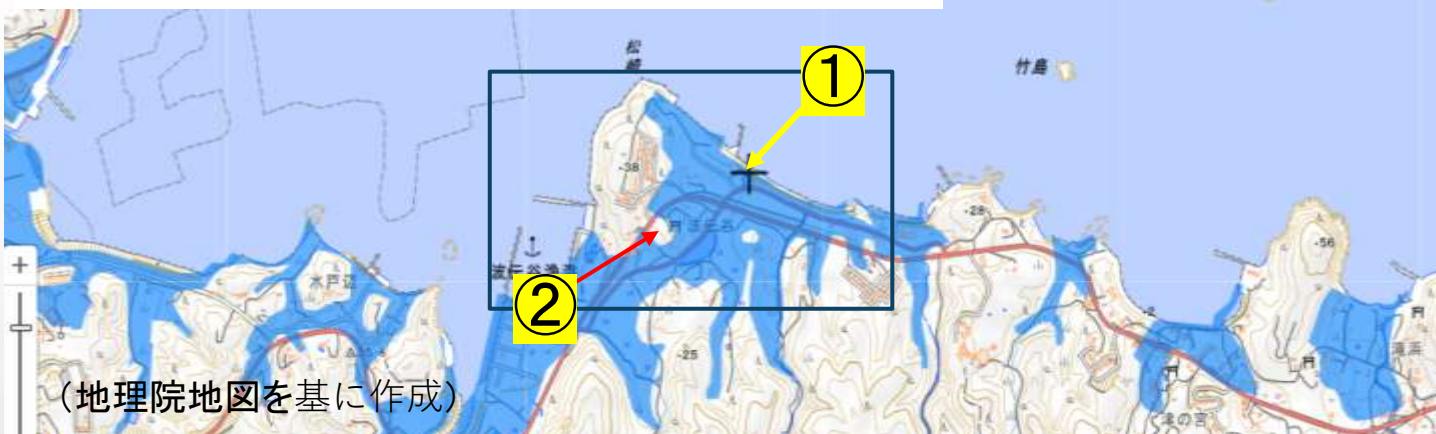
（標高4.3m）



戸倉神社の社殿
敷地（標高16.1m）
に移転



4.3 南三陸町波伝谷の事例



①民家敷地脇

→震災復興で防潮堤工事完成

②戸倉神社に移設(最近)

波伝谷・・・地名の由来

本来「波轉谷」(波転谷)。

お神酒等を積込んだ船が揚陸を待っているとき『一夜海底隆起して丘陵となり荒み立上り波に轉しられて船は遠く水面を離れて...との記載(寛永7年・戸倉大明神縁起)

東北歴博報告書(2008)「波伝谷の民俗」より

4. 考察

- 宮城県の昭和三陸津波記念碑は、津波到達位置付近への建立が多い。
- 2011年の津波で倒壊後の再建立は、様々な事情で元位置から数百m以上離れた、地形の全く異なる場所への移設もある。
- 移設によって当初建立の意図が失われる恐れもある。
- 津波災害の事実を正確に伝承するために、碑の「移設履歴書」を明らかにしておくことが望ましい。

・石浜で紹介「女川いのちの石碑」とは・

東日本大震災直後に現在の女川中学校に入学した生徒らが、将来の津波被害を最小限にする取り組みの一つとして、地域住民と一体となり女川町内全21浜に設置した石碑。平成25年度の「ぼうさい甲子園」でグランプリ受賞

(参考女川町HP https://www.town.onagawa.miyagi.jp/03_00_07.html)



主旨：既往最大津波高さを示す

昭和三陸津波記念碑と
同じ敷地内に隣接

・・・石浜、竹浦、寺間

同地区に近接

・・・出島、高白浜、野々浜、御前浜、

同時に探訪することで、その地の津波災害履歴を理解するのに有効

東日本大震災で、多くの人々の尊い命が失われました。地震後に起きた大津波によって、ふるさとを飲み込まれ、かけがえのないたくさんの宝物が奪われました。

「これから生まれてくる人たちに、あの悲しみ、あの苦しみを、再びあわせたくない！！」その願いで、「千年後の命を守る」ための対策案として、①非常時に助け合うため普段からの絆を強くする。②高台にまちを作り、避難路を整備する。③震災の記録を後世に残す。を合言葉に、私たちはこの石碑を建てました。

ここは、津波が到達した地点なので、絶対に移動させないでください。

もし、大きな地震が来たら、この石碑よりも上へ逃げてください。

逃げない人がいても、無理矢理にでも連れ出してください。

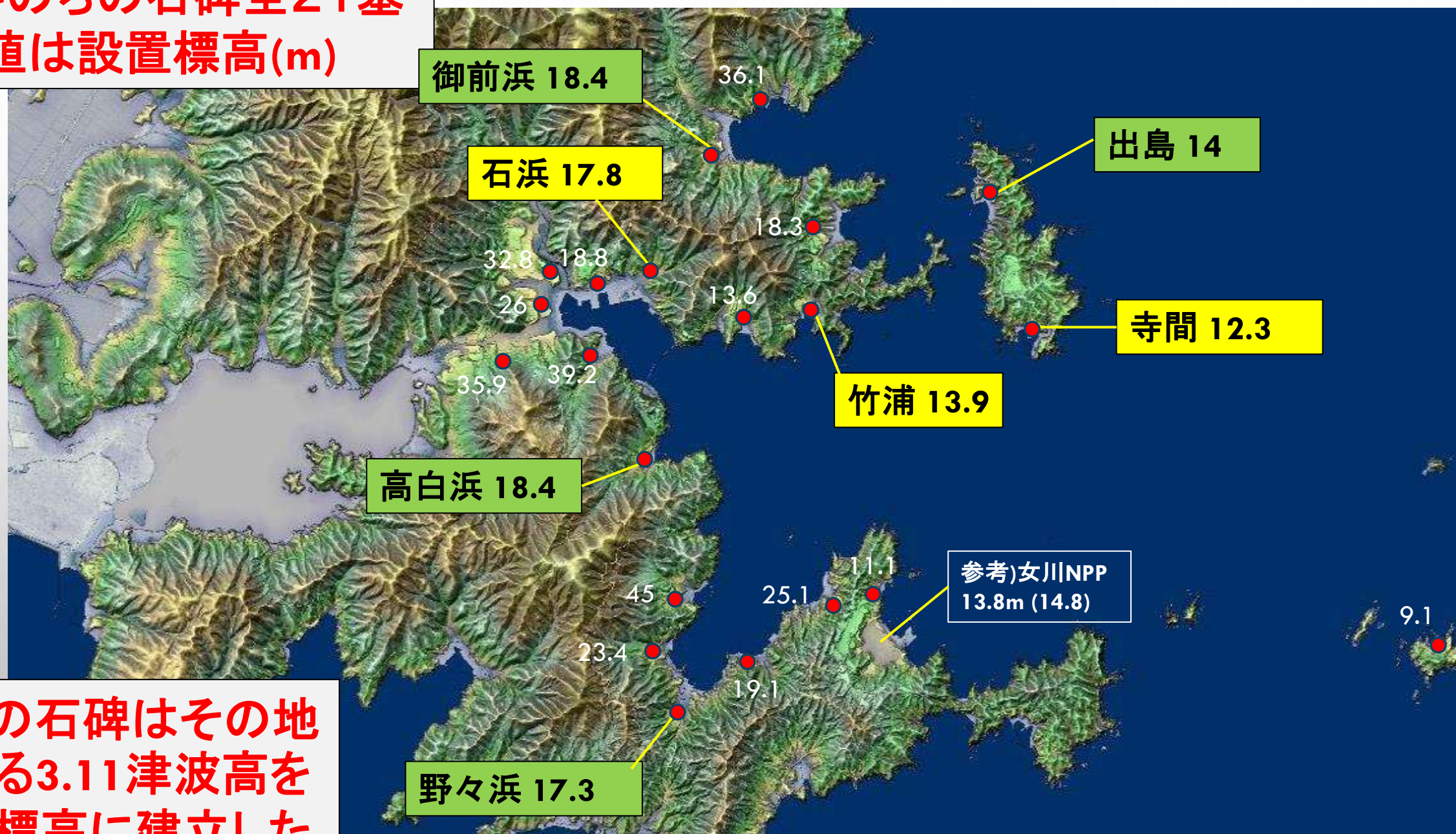
家に戻ろうとしている人がいれば、絶対に引き止めてください。

今、女川町は、どうなっていますか？

悲しんで涙を流す人が少しでも減り、笑顔あふれる町になっていることを祈り、そして信じています。

2014年3月 女川中卒業生一同

女川いのちの石碑全21基
数値は設置標高(m)



すべての石碑はその地
における3.11津波高を
上回る標高に建立した



ご清聴
ありがとうございました

